

Q35. 血液透析を行なっている最中に起こる合併症について教えてください。

A.

1. 不均衡症候群

透析を始めたばかりの方に出ることがある症状です。

透析により、血液中の老廃物は減少しますが、脳内の老廃物は除去されにくく、濃度差が生じます。この際、脳内に水分が移動し、脳圧が上がるため、頭痛、吐き気などの症状が起こることがあります。症状のひどいときは医師に相談し、鎮痛剤などを処方してもらうとよいでしょう。

透析になれば起こらなくなっていくます。

2. 血圧低下

急速な除水、血圧降下剤の服用などが原因で、透析中に血圧が下がることがあります。また、発熱、かぜ、下痢、睡眠不足など体調のよくない時にも起こりやすいといわれています。糖尿病や、動脈硬化があると血管の弾力性が落ちるため、血圧が下がりやすくなります。

生あくび、吐き気、冷や汗、動悸、腹痛などの症状が生じたときは、すぐに看護師やスタッフに伝えて下さい。また、水分、塩分を取りすぎないようにし、目標体重の3～5%以内に体重の増加をおさえましょう。

透析中に急に起き上がったたり、食事をすると、血圧が下がることがあるので十分注意しましょう。特に血圧の下がりやすい人は透析後の食事が望ましいです。

血圧が下がった場合は、下肢拳上、生理食塩液を注入したりします。血圧を上昇させる薬のリズミック、ドプス、メトリジンを経験の指示に従って服用することもあります。

3. 筋けいれん

急速に除水を行なったり、血液中の電解質のバランスが崩れたときに起こります。

足（特にふくらはぎ）や、手などの筋肉のつりや、けいれんが起こります。

体重増加に注意し、ゆるやかな除水をしましょう。芍薬甘草湯という漢方薬や、レボカルニチン塩化物の内服等で予防することができる場合もあります。急に体を動かすとけいれんの引き金になるので注意しましょう。

筋肉のけいれんしている部位を伸ばしたり、電気アンカ等で温めたり、マッサージすることも有効です。

4. かゆみ

透析中や透析後にかゆみが起こることがあります。理由はよくわかっていませんが、アレルギーや、皮膚の乾燥、かゆみを起こす物質の蓄積など、血液中のリンの値が高いことも原因と言われていています。皮膚の乾燥を防ぐためにクリームやローションを塗る、抗アレルギー剤や、抗ヒスタミン剤の内服、患部を冷やすなどすると症状が軽減できます。

また、かゆみを引き起こす物質の蓄積を防ぐため、十分な透析を行なう必要があります。血液中のリン値が5.5mg/dl以下になるような食事を心がけましょう。

入浴時は皮膚をこすりすぎないように注意し、シャントの周囲はテープののりが残らないよ

うにやさしく丁寧に洗うようにしましょう。ナイロンタオルの使用は厳禁です。

透析中は透析液の温度を低めにするとよいでしょう。

衣服は化学繊維や毛織物を避け、木綿などの皮膚にやさしいものにしましょう。

5. 発熱

感冒や、細菌、ウイルスなどによる感染などが原因で起こります。

透析患者さんは免疫力が低く、感染しやすく重症化しやすいため、注意が必要です。

十分な栄養を取り、感染に対する抵抗力をつけるようにしましょう。

手洗い、うがいをし、感染予防につとめ、インフルエンザ等の予防接種はできるだけ受けるようにしましょう。

また、シャントは頻回に穿刺をしますので、清潔に保つように心がけ、発赤や痛みのあるときは早目にスタッフに伝えましょう。

6. 血管痛

穿刺による血管壁の刺激、血管の狭窄、血管の収縮、血管の炎症などで血管の痛みが生じます。血管の炎症以外は湿布や、鎮痛消炎剤の塗布、マッサージを行いません。穿刺部位によって血管の痛みには差があれば、穿刺部位を変えてみましょう。

7. 腹痛

ほとんどが除水や血圧低下により、消化管の循環障害が起きて生じます。腹痛と便意を強く感じる人が多いです。

体重増加に注意し、除水が多くならないようにします。また、透析中に排便すると急激な血圧下降や、失神したりする場合があります。透析前日の下剤の服用は避けてください。

透析患者さんは出血しやすい傾向にありますので、胃や腸からの出血による腹痛も考えられます。**便の色が赤や、黒くなっているときはすぐに報告してください。**

看護師